



b.		
d.	c.	a.

a./地域の人の集まる納屋。過ごしやすいようまだまだ改修が続いている。b./この薪ストーブに出会うまで、いくつかのメーカーを巡った。  
c./外観はそのまま。山から切り出してくる薪も丁寧に、丁寧に積む。d./土とレンガで手作りしたピザ窯。



name.

水戸 芳郎 さん  
典子 さん

data.

- 施工期間 : 約1年  
+住みながら継続中
- 経費 : 50万円(材料費のみ)  
+薪ストーブ
- 築年数 : 55年

納屋も活用しています。壊れていた床は、釘で止まっていた板を裏返して張り替える。足りないところは古材で補っています。大きな机は、ミーティングやイベントができるように。外のピザ窯も手作りです。火を使うと人が集まってきましたね。物を置くだけのところだったスペースが、人が交流できるところに生まれ変わって嬉しいです。

冬になると、朝、1時間早く起きて薪ストーブに火をいれ、部屋をあたためます。使う薪は、裏山から切り出してきたもの。家だけでなく、山の手入れもするのは、今の自分のためではありません。将来、子どもや孫たちに帰って来てもらえるような環境を残したいからです。パッと見て「きれいだな」「住みたいな」と思ってもらえるように。近くの親戚の家の改修も始めました。地道にコツコツと、この地域を美しく残していきたいです。

所有物件

AKITAKATURNS FILE.

03

家や山に手を入れるのは、子ども達が、戻りたくなるふるさつをつくるため

6年前、定年をひかえた頃に、この先をどう生きようかなあと考えたんです。それまでは家も職場も街中で、田舎暮らしとはかけ離れていました。60歳で仕事をやめても、健康に生きられるのもう5年働くのは時間があったくない。思い切って、中学生まで過ごしたこの実家に戻ることに決めました。

それから退職までの間、平日は仕事をし、週末はここに通いました。今まで草刈りを手伝ったこともなかったのに、機械の使い方を教えてもらって家の周りをきれいにして。長く暮らすなら、家も居心地をよくしたい。そう思って、建築の仕事をしていた経験を生かして図面を書くことから始めました。

古い家の雰囲気って、いいですよ。外観はできるだけ変えたくなかったので、その分内側で遊び心を發揮しました。材料にお金をかければ何でもできるけど、それではおもしろくない。ちょうど納屋に父が残っていた板や材があったので、切ったり削ったりしながら工夫して使いました。これがとてもおもしろかったですね。

全て一度に変えることはできないので、改修は少しずつ進めました。まず手をつけたのは、寝室です。引越したら、自分たちが住む部屋が必要だと思ひ、土間と洋室だったところを利用して、小さな部屋をつくりました。床の高さをそろえて板を張り、本や小物の置ける棚も構えました。木のあたたかみに囲まれて、ゆっくりと過ごせる落ち着いた空間です。それから、台所の奥にパントリーをつくり、リビングに薪ストーブをつけました。